

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎		◎
	2	○	◎	
	3	○	◎	
	4		◎	
	5	○		◎
	6			

経営学研究科博士後期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	模範的	優秀	合格圏	学習過程
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	学術性の高い研究課題が非常に明確に示され、先行研究を踏まえての的確性が優れている。	学術性の高い研究課題が明確に示され、先行研究を踏まえての的確性が十分に確保されている。	学術性の高い研究課題の明確性に不十分な部分があるが、先行研究を踏まえての的確性が確保されている。	研究課題が不明確で、先行研究を踏まえての的確性が確保されていない。
課題を追求する上での方法論の適切性	研究課題を追求する上での方法論が非常に適切に選択されている。	研究課題を追求する上での方法論が適切に選択されている。	研究課題を追求する上で選択された方法論の一部に課題があるが、基本的には適切である。	研究課題を追求する上での方法論が適切に選択されていない。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究課題を追求する上での研究方法及び調査方法が非常に適切かつ効率的に用いられている。	研究目的の達成に必要なデータや資料を収集しており、それらを研究目的に沿ってほぼ十分に活用し、提示している。	研究目的の達成に必要なデータや資料を収集しており、それらを研究目的に沿って活用しているが、さらに改善の余地がある。	研究目的の達成に必要なデータや資料を十分に収集しているとは言えない。
結論の妥当性	採用された研究方法及び調査方法によって導き出された結論の妥当性が非常に高い。	採用された研究方法及び調査方法によって導き出された結論が妥当である。	採用された研究方法及び調査方法によって導き出された結論の一部に課題があるが、基本的には妥当である。	採用された研究方法及び調査方法によって導き出された結論が妥当ではない。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究の顕著な独創性が確保され、当該研究分野への顕著な学術的貢献が認められる。	研究の独創性が十分に確保され、当該研究分野への学術的貢献が明確に認められる。	研究の一部に独創性が認められ、当該研究分野への学術的貢献が一定の範囲で認められる。	研究の独創性が十分に確保されておらず、当該研究分野への学術的貢献が明確に認められない。
その他				